
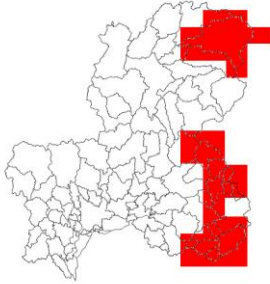


オオタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> Franch. et Sav. var. <i>rouyana</i> (Franch.) Kük.	絶滅危惧I類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。	写真(清水英彦) 標本 
形態の特徴	匍匐枝を出さず、叢生する。基部の鞘は褐色～淡褐色。頂小穂は雄性で長柄があり、雌小穂や苞とは接しない。雄鱗片は褐色、鈍頭。雌鱗片は白色で中脈緑色、一部褐色を帯び、鋭頭、果胞より短い。果胞は6-7mmで無毛、有脈、嘴は細長く、口部は斜形。花期は5-6月。	
生態的特徴	丘陵や山地の樹林に生育する多年草。	
分布状況	本州(東北地方南部～近畿地方)に分布し、岐阜県では県北と県南東部に分布する。	
減少要因	開発に伴う山林伐採。	
保全対策	山林の保全。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本眞理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦